



彼岸花

清友

No.109

2018年9月

東京清掃労働組合退職者会

〒102-0072 千代田区飯田橋3-9-3 SKプラザ5F

TEL 03 (3237) 9995 FAX 03 (3237) 4541



100万坪の高原リゾート「ニュー・グリーンピア津南」



秋山郷・布岩

秋の親睦旅行

11月11日～12日

ニュー・グリーンピア

津南へ一泊バス旅行

16,000円

清友会親睦旅行案内

- 日程 11月11日(日) ~12日(月)
- 会費 16,000円
※2日目の昼食代含む
※二人一室は一人2,000円加算
- 宿泊 ニュー・グリーンピア津南
(新潟県中魚沼郡津南町)
- 集合 都庁・都民広場南側
午前8時15分
※バスは8時30分出発
※練馬で途中乗車・下車可能
- 主な行程
〈1日目〉 午後は自由行動(昼食は各自)
夜は勿論カラオケ付宴会
〈2日目〉 午前中「秋山郷めぐり」
- 留意点 バスは貸切ではありません
- 申込み 9月29日(土) 締切

親睦旅行は3年連続で中止せざるを得ませんでした。今年は何としても実施したいと、少人数でも可能な方法を検討し、親睦を優先した一泊のバス旅行を企画しました。

旅行先の「ニュー・グリーンピア津南」は、百万坪の敷地に各種アウトドア施設、インドア施設があり、温泉も楽しめる高原リゾートです。

二日目に「秘境秋山郷めぐり」をセットしました。宴会では、カラオケ歌い放題です。会員の皆さま、ご家族の参加をお待ちしています。

10月16日(火)

秋のフィールドワーク 「東京大空襲と墨田の歴史探訪」



午前10時東武浅草駅前集合

フィールドワークの企画内容

- 開催日 10月16日(火)
- 集合 10時・東武浅草駅前
- テーマ 東京大空襲跡と墨田の歴史探訪
- コース ①ガイドの案内で「すみだ郷土文化資料館」で「東京空襲の体験画展」と墨田の歴史展示を見学
②昼食後、見番通り等向島界限、浅草側の待乳山聖天等を散策
③言問橋浅草側詰付近で解散
- 参加費 無料の予定
※昼食代各自負担の予定
- 申込み 9月29日(土)締切

3月上旬から 「終活」テーマに 連続講座も視野

- ▼開催日 3月上旬から
- ▼テーマ 「終活」シリーズ
 - ①エンディングノート
 - ②相続など法律関係
 - ③葬式・お墓事情
 - ④年金等死別後の遺族の生活
- ▼実施方法
上記4テーマを2～4回に分けて実施。連続講座も視野に。

STOP!安倍政治! 9.14 学習交流会

民主主義をないがしろにし、
戦争のできる国へ突き進む
安倍政治を終わらせよう!

学習交流会

- 開催日 9月14日(金)
午後1時15分開会
- 会場 清掃会館地下ホール
- テーマ 安倍政治を終わらせるために
講師：勝島一博さん
(平和フォーラム事務局長)
※学習会終了後、交流会

1月19日(土) 新春の集い

- ▼開催日 1月19日(土)
- ▼場所 飯田橋「楼蘭」
*昨年と同じ中国料理店
- ▼参加費 3千円の予定
*昨年同様のパフォーマンス予定
- ▼募集 12月に案内送付の予定

2月7日(木) 演芸を楽しむ会

- ▼開催日 2月7日(木)
- ▼演目 国立演芸場2月上席
*出演者は1月初めに決まる
- ▼参加費 500円
*65歳未満1,000円
- ▼募集 1月に案内送付の予定

19予算概算要求は過去最大の103兆円弱

人気取りのバラマキと 防衛費肥大化が特徴

8月31日に出そろった国の19年度予算概算要求の一般会計要求総額は103兆円弱で過去最大です。特徴的なのは、防衛白書で「朝鮮半島の情勢変化」にひと言も触れなかった防衛省予算の肥大化です。表面的には「イージス・アショア」

の導入等で2.1%増ですが、米軍再編関係経費等を隠しているため、実質は6.3%増になり、突出しています。

社会保障費抑制は 年末に出される方針待ち

高齢化による医療、年金など社会保障費増は6千億円です。過去3年間実施した「抑制目標の金額設定」を行わず、

年末に示すとき、来年に示すとき、方針18」の行程表待ちとなっています。

国債の借金返済は5.5%増の25兆円弱。日銀の金融介入で低金利にしても増え続ける国の借金の対策を安倍政権は先送りし、将来世代に負担を転嫁し続けています。



「骨太方針18」 社会保障敵視は変わらず

財政審が給付抑制と 利用者負担増に言及

「社会保障費が経済成長の最大の阻害要因」と、社会保障制度敵視をあらわにする安倍政権は、「骨太方針18」でさらなる社会保障給付の抑制を打出しました。財政審は、介護保険の給付抑制と利用者負担増を建議しています。

ただし、19年度から3年間は「後期高齢者の自然増が鈍化」します。過去3年間行った抑制額の設定を行わず、年末に策定する行程表の中で

削減目標を提示することが想定されます。どうやら来年の参議院選までは厳しい抑制策を提示せず、選挙後に豹変する安倍政権の姑息なやり方が透けて見えます。

中程度者を介護保険から 排除する策動は許せない

14年改悪で、「要支援一・二」の訪問介護と通所介護を市町村事業に移行しましたが、国が画いた「ボランティアが中心になった自主的サービス」の体制を整備できた自治体は少なく、大半の自治体が従来

水準の給付サービスを継続しており、厚労省もこの「相当サービス」を容認しています。

しかし、財政審は現場の実態を全く無視し、「相当サービス」の早期廃止を求め、「単独での緩和型サービス実施が困難な自治体は複数団体にまたがる事業の実施を検討すべき」とし、何が何でも、要支援者へのサービスの水準を大幅に引き下げようとしています。

さらに、「要介護一・二の生活支援サービス等の更なる地域支援事業への移行を進める」

と主張しています。生活援助の介護保険からの除外を突破口に、中程度者を介護保険から完全に排除し、中重度者の施設介護中心の介護保険に変質させることを狙ったものであり、断じて容認できません。

介護保険の利用者2割負担 サービスの抑制が狙い

財政審は、「介護保険の利用者負担を原則2割にする」と主張しています。

14年改悪以降、「能力に応じた負担」を口実に、一定の所得がある者に2割・3割負担を導入しましたが、今年3月に明らかにされた「介護保険2割負担の導入による影響調査報告」によると、負担割合増を理由にサービスの利用回数を変更した割合は1割負担者の3倍、「負担が重い」と感じる利用者は1割負担者の5倍でした。明らかに負担率引き上げが、サービス利用を抑制することを示しています。

「原則2割負担」は介護サービスの利用自粛につながり、結果的には要介護度の悪化を加速させてしまいます。2割負担は到底容認できません。

都退協第48回定期総会



東京都退職者協議会（都退協）の第48回定期総会が、8月1日、都労連会議室で開催され、代議員として丹野副会長が参加しました。

総会は、一年間の物故会員への黙とうで始まり、塩田会長（東交退）挨拶の後、各来賓から挨拶を受けました。

西川都労連委員長から、安倍政権による国会や国民無視の政治、特に働き方改革法への批判を含む少々長い挨拶があり、西澤地公退会長は、「自民党杉田・稲田・片山3女性国会議員の発言は『女性参画』推進に反する時代錯誤。」「小池都知事は小笠原に飛行場を作ろうとしているが、小笠原の自然を守る取り組みを破壊する。」と批判しました。

行政からの挨拶もあり、東京都総務局職員支援課長や東京都人材支援事業団事務局長に続き、東京都共済組合年金課長から、「今年度は年金受給額に変更はなかったが、来年度からデフレ時のマクロ経済

スライドが適用される」等の発言がありました。

議案に入り、経過報告で、地公退の関連で平和フォーラム等による行動が多く行われ、現職に代り退職者が頑張ったことなどが報告されました。

質疑で、「都退協の在り方の検討を加速すべき」等の指摘がありました。案を全会一致で採択しました。

総会は、①憲法改悪反対、②辺野古新基地建設反対、③セクハラをなくしジェンダー平等を目指す、④脱原発社会の実現を目指す等の特別決議を確認して散会しました。

都退協は都労連に対応する退職者組織ですが、地公退の東京組織の役割も担っているという変則的な組織形態になっていきます。そのため、財政的基盤が脆弱なことなどの問題をかかえています。また、議事から挨拶の時間が長く、議事時間が短かったのはそのせいだったのかと、少々疑問に感じたところです。（丹野）

人事院 月例給0・16%、一時金0・05 月引上げ、定年制の延長を意見 （給与水準は退職前の7割）

人事院は8月10日、月例給ボーナスとも引上げ（5年連続）の勧告を行い、あわせて、「働き方改革」に則して超勤の上限規定を設定しました。また、定年延長について初めて意見を示しました。

しかし、超勤の上限設定は重要性・緊急性の高い業務を特例としており、なし崩し的に例外が通常化する危険があります。また、定年延長に伴う賃金水準は不当といえます。現役世代の闘いの成果が年金水準に直結します。今年も現役の闘いを応援します。

■勧告の概要

- (1) 月例給 民間との較差 (0.16%、655円) 俸給 583円、はね返り 72円引上げ
 - (2) ボーナス 0.05月分引上げ、勤勉手当に配分
- ### ■公務員人事管理に関する報告
- (1) 国民の信頼回復に向けた取組み
 - ①研修を通じた倫理感・使命感の醸成
 - ②セクハラ防止対策（研修等）
 - ③公文書の不適正な取扱い→懲戒処分の明確化。
 - (2) 働き方改革と勤務環境の整備等
 - *超勤の上限を原則月45時間、年360時間（例外規定で月100時間、年720時間まで）設定。

■定年延長に関する意見

- (1) 定年延長の必要性
 - *若年労働力人口が減少、60歳を超える職員的能力・経験を本格的に活用するため。
- (2) 定年引上げに関する具体的措置
 - ①定年を段階的に60歳から65歳に引き上げ
 - ②役職定年制の導入
 - ③希望により短時間勤務（再任用）可能
 - ④年間給与を60歳前の7割水準に設定

東京清掃人権啓発推進担当者会議 清掃・人権交流会第20回定期総会

8月6日、清掃会館で、「東京清掃人権啓発推進担当者会議」と「清掃・人権交流会第20回定期総会」が開催されました。

人権啓発担当者会議は、有田芳生参議院議員を講師に「ヘイトスピーチ解消法から2年」人権後進国・日本の課題」の講演が行われました。

有田さんは「自民党杉田水脈議員は『LGBTは生産性がない』と雑誌に書いた。『高齢

者、障害者は生産性がない』に通じる。ナチスは障害者を5万人虐殺した。95年前、関東大震災で在日外国人などが虐殺された。13年に大久保で行われたヘイト・デモでは『ころせ！殺せ！朝鮮人！』と大声で叫んでいた。これに抗したカウンター運動を背景に『ヘイトスピーチ解消法』がつけられたが、不十分。差別の温床である安倍政権の打倒が必要。」と訴えました。



後段の「人権交流会総会」は、狭山闘争や、と場見学会、フィールドワーク、特別区研修所対策等の取組みの成果を確認し、新役員を選出しました。退職者会員の押田さんが会長、郡司さんが副会長に再任、新事務局長に東京清掃常任で練馬支部の坂部さんが就任しました。

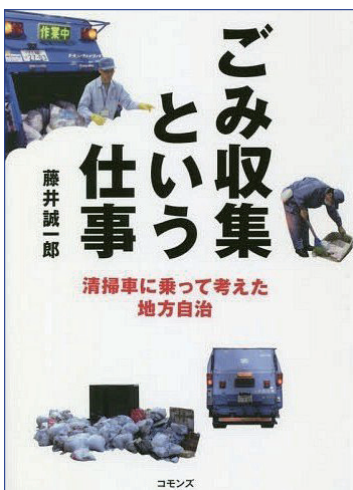
書評 「ごみ収集という仕事」 清掃車に乗って考えた地方自治 藤井誠一郎著

地方自治研究者の筆者が、16年6月から9か月に渡り新宿区で清掃現場の業務を体験した。「現場で実態を把握する」研究手法を実践したのだ。

この本はその経験をベースに、清掃現場の実態や清掃労働者の思いを描いたものだ。過酷な炎天下や真冬の凍える寒さの中での収集作業、機動班、繁華街、ふれあい指導や苦情処理、独居老人訪問収集、不燃ごみの破袋、環境学習等、様々な仕事を体験する中で、清掃労働は「蓄積された経験をもとに、高度な判断も必要な仕事」と実感したという。

藤井さんは車付雇上を含む委託労働者からも多くの意見を聞き、全国で拡大する委託の問題点も鋭く指摘している。仕事を通して街のすみずみまで知り尽くす清掃職員は「公共の財産」であり、逆にどんなに進む委託化がそれらの財産を損ね、失われるものの大

きさに気づくべきと警告する。私の住む多摩地域の清掃作業はほとんど全面委託され、一人作業やステップ乗車は当たり前前、回転盤は回しっぱなしで駆けずりまわる風景が広がり、私たちが闘い取ってきた安全作業はどこかへ行ってしまっている。重大事故が起き、清掃労働者が使い捨てられていく。「安上がり」清掃行政の問題点を指摘し「公務労働を安易に委託していいのか」と居住する市当局に迫ることを始めた。この本は、そうしたエネルギーを与えてくれた。東京清掃本部もこの本の活用を始めている。ぜひ、多くの仲間が読みになることをお勧めしたい。(押田)



藤井誠一郎著
「ごみ収集という仕事」
コモンズ、2,376円

一組総支部「福島フイールドワーク」に参加して

一組総支部企画の「福島フイールドワーク」が、7月6日～7日に開催された。大震災後の福島の状況に関心はあったものの、これまで現地の様子を知る機会が無かったので、大いに期待し参加した。

「福島フイールドワーク」は、講師の「放射能ごみ焼却を考えるふくしま連絡会」和田央子さんを含め26名が参加した。退職者会の参加は7名だった。

コミュタン福島を見学



福島県環境創造センター（コミュタン福島）



「放射能ごみ焼却を考えるふくしま連絡会」和田央子さんによる講演会

今回のフイールドワークは、福島第一原発周辺の廃棄物処理施設見学を中心に、その現状を学ぼうという企画だった。最初の見学先は、田村郡三春町の「福島県環境創造センター」（コミュタン福島）。

原子力災害からの「環境回復と創造」に向けた取り組み拠点として16年に福島県が設置した施設で、県内の児童が教員に引率されて訪れており、展示内容も子供に分かりやすいものだった。ただし、除染

が進み、放射能被害の影響はかなり少なくなってきたということとを前面に出している感があり、実際に起きた原発事故の実態や廃炉処理の困難さ、膨大な量の汚染廃棄物処理の具体的説明もなく、福島の放射性廃棄物処理の課題に本質的には触れていなかった。

廃棄物焼却の実態は？

宿は母畑温泉の八幡屋だった。蛇足だが、評判通り素晴らしい旅館だった。それは兎に角、旅館の会議室で、「放射能ごみ焼却を考えるふくしま連絡会」の和田央子さんより、放射能廃棄物焼却の実態について、講演していただいた。

福島第一原発で起きた未曾有の放射性物質放出事故を受け、膨大な量の廃棄物処理は喫緊の課題となり、仮設焼却炉の建設が環境省を事業主体（一部は県内自治体、広域処理組合）として次々に進められ、大震災以降19市町村で24基建設されたとのことだ。

仮設焼却炉は、プラントメーカーと建設会社のJVが建設し、運営、解体までの費用が含まれる。稼働は2年から4年で、既に解体されたものもある。各仮設焼却炉の契約金額は多くが100億円を超え、760億円に及ぶものもある。明らかに高額であり想像を遙かに上回る金額の復興予算が垂れ流されてきたことが分かる。プラントメーカーは大震災以降、清掃一組の清掃工場受注に目もくれず、被災地の汚染廃棄物処理を行う仮設焼却炉に群がっていたということだ。

被害の実相が垣間見え

汚染廃棄物の処理は、大きな問題も明らかになっており、焼却実証実験では、焼却灰の放射能が濃縮されて高濃度になり、管理型処分場に埋め立てる計画だったとのことだ。

翌日、見学地へ向かう車中から、放射性廃棄物を詰め込んだフレコンバッグの山があちこちに見えた。改めて福島で起こった被害の実相を垣間見る思いがした。（山下）

戦争犠牲者追悼、平和を誓う8・15集会
非戦の誓いを新たに、平和と民主主義に敵対する安倍政権を退陣へ

敗戦から73年。今年も8月15日に平和フォーラム主催の「戦争犠牲者追悼、平和を誓う8・15集会」が、「千鳥ヶ淵戦没者墓苑」で開催され、猛暑の中、200人が参加しました。正午の時報に合わせて無名戦没者の遺骨を納めた納骨堂の前で黙とうを行った後、誓いのことばが述べられました。

平和フォーラム福山共同代表は、「平和と民主主義に戦後最大の危機を作り出している安倍政権退陣へ、総がかり運動と、野党共闘、市民運動と野党の連携強化を。」と呼びかけ、立憲民主党近藤副代表は「核廃絶、人道支援、経済連携、文化交流等の推進により人間の安全保障を実現し、他の国々とともに開かれた国益の追求を。」と強調、社会民主党又市党首は、「軍事大国化に反対し、安倍政権の改憲発議阻止に全力を挙げ、不戦の誓いを

後世に引継ぐ。」と誓い、立憲フォーラムの阿部知子衆議院議員は、「安倍総理による憲法改悪に闘い抜く。」と表明、戦争をさせない1000人委員会内田さんは「アジアの民衆との共闘」を訴えました。その後、参加者全員で献花を行い、平和を守る誓いを新たにしました。



誓いのことばを述べる平和フォーラム福山共同代表

清掃工場の委託提案撤回を！

清掃一組当局は、7月末に①練馬工場の運転業務と搬入受付業務等の委託、②大田工場の委託範囲に定期補修工事等を追加すると提案しました。

委託化はむしろ財政負担を増加させ、技術の継承を阻害するなど、実務面からみても問題です。東京清掃は清掃工場の委託化に一貫して反対し、度重なる委託化攻撃に抗して「新規開設清掃工場は安定操業の確保と新技術の習得を図るため、直営により運営する」



ことを当局と確認しています。今回の当局提案に対し、提案の白紙撤回を求めるとともに、安全で安定的工場運営を維持するための完全直営化を求めて闘いを開始しました。ガンバレ！東京清掃！

西日本豪雨災害被災者救援
カンパにご協力ください

6月下旬以降の台風と梅雨前線により西日本では深刻な豪雨災害に見舞われ、退職者会会員を含む多くの方が被災し、今も苦しんでいます。

自治労と自治体退職者会は、被災者救援活動の一環として「災害特別カンパ」を実施することにしました。

取組みは次により行います。是非、ご協力ください。

なお、カンパの拠出先は自治労中央委員会で決めることになっています。

【目標額】 会員一人 1,000円

【実施方式】

- ①極力現金で納付してください。
(学習会等行事実施時や幹事会等)
- ②現金納付が困難な方は、「会費振替先口座」に納付してください。
(手数料は会員負担でお願いします)

翁長沖縄県知事の遺志を受け継ぎ、 新基地建設阻止！安倍政権退陣！

15年9月に戦争法が強行採決されて以降実施されてきた19日行動が、8月19日に開催され、国会議員会館前に約3千人が参加しました。

主催者を代表して戦争をさせない1000人委員会の内田雅敏事務局長は、「戦争をしてこなかった戦後のこの日本を、これからの世代に引き継いでいこう。」と訴えました。

連帯挨拶で各政党は、「安倍政権打倒へともに闘おう！」と、決意を述べました。

各界からの連帯挨拶で印象的だったのは、安保法制違憲訴訟原告の大村芳昭中央学院大学教授が、「安保法制違憲訴訟が全国22裁判所で25の訴訟を闘っているが、東京地裁では裁判官の交代が相次ぎ、現在の裁判官が原告の証人申請を不採用としたため、3名の裁判官の忌避申立てを原告側が行う事態となっている。」と報告をしたことです。司法が政府の言いなりになっている

状況が鮮明になっています。行動の最後に「8月8日に亡くなった翁長県知事の『沖縄に新基地を造らせない』という強い遺志を受け継ぎ、日本の平和を守り抜くため、沖縄と連帯して闘い抜き、沖縄県知事選に勝利しよう。」という訴えに参加者全員で共有しました。9月19日は、戦争法の強行採決からまる3年です。安倍退陣まで闘いましょう。



8月11日、東池袋公園で「埋めるな！辺野古・沖縄県民大会に呼応する首都圏大行動」が行われ、約3千人が集まりました。集会冒頭で、8月8日に亡くなった沖縄の翁長知事に対する黙祷が行われました。集会途中で沖縄県民大会の様子が中継され、7万人が集まったことが明らかにされました。辺野古新基地建設は、環境保全や建築関係を含む様々な法律も民意も手続きも無視して強引に進められています。まさに民主主義の危機です。許せません。

9月の行事・行動カレンダー

- ★退職者会第2回幹事会
 - <日 時> 9月14日(金) 10時30分
 - <場 所> 清掃会館地下会議室
 - *傍聴できます。
- ★退職者会学習交流会
 - <日 時> 9月14日(金) 13時15分
 - <テーマ> 安倍政治を終わらせるために
 - <場 所> 清掃会館地下ホール
- いのちをつなぎ、暮らしを守れ！フクシマと共に9.17さようなら原発全国集会
 - <日 時> 9月17日(月・休) 13時30分～15時
 - <場 所> 代々木公園B地区
 - *集会後「外苑前」までデモ
- 戦争法からまる3年、安倍9条改憲NO！沖縄・辺野古新基地建設阻止！日比谷集会
 - <日 時> 9月19日(水) 18時30分
 - <場 所> 日比谷野外音楽堂
 - *集会後、銀座デモ